

令和 6 年度

福岡女子大学大学院人文社会科学研究科

社会科学専攻 博士後期課程

[春季試験]

福岡女子大学博士前期課程修了者特別選抜

筆記試験問題

【社会心理学・健康心理学】

以下の文を読んで①～③の問いに答えなさい。

健康とは、単に疾病を患っていないとか体調が万全であるといった生理的・身体的機能のみを指すものではない。世界保健機関（World Health Organization: WHO）の設立に伴い、1948年に発効したWHO憲章の前文に記されている通り、「健康とは、身体的にも、精神的にも、そして社会的にも完全に良好な状態（well-being）」である。この健康定義は、それまでの病気でなければ問題ないという見方を払拭するだけでなく、よりよく生きるというポジティブな側面まで含めた点において画期的であった。また、心身が良好な状態であるだけでなく、社会的にも良好な存在であることが求められている点から、身体的な側面を連想しやすい「健康」から「ウェルビーイング（well-being）」という概念で研究が進められるようになった。①心理学の分野においては、ウェルビーイングをどのような概念として捉えて検討が進められるようになったか、代表的な例を挙げて説明しなさい。また、②検討する際に社会・文化的な視点を持つ重要性について指摘されることが多いが、その意義について述べなさい。

さらに、健康（ウェルビーイング）の評価に関して、2001年にWHO総会で採択された国際生活機能分類（International Classification of Functioning, Disability, and Health: ICF）では、それまでの機能・能力障害や社会的不利などネガティブな側面に着目されていた分類が、生きることの全体像をみるという新しい健康観を提起するものとなっている。ICFでは、健康状態の構成要素が3つのレベルの「生活機能」（心身機能・身体構造、活動：生活行為、参加：家庭・社会への関与・役割）と、それらに影響を与える2つの「背景因子」（個人因子と環境因子）を組み合わせると約1,500項目に分類されている。個人の生活機能全般に焦点を当て、何かしらの疾患や障害を持って社会生活を営んでいる“半”健康な状態であっても、その個人ができることや自己の強みを活かすことでよりよい状態を実現できると考えられる点が重要なポイントとされている。③ここから、ウェルビーイングの評価やウェルビーイングの向上に向けた支援で重視されるべき点について考察しなさい。